

(トップページ：<http://members3.icom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(カタール：<http://members3.icom.home.ne.jp/3632asdm/Qatar.html>)

(「写真は語る」シリーズ：<http://members3.icom.home.ne.jp/3632asdm/PhotoEssay.html> )

マイライブラリー：0181

## 写真は語る：カタールにレッド・カード！

2011.5.27

前田 高行



上の写真は昨年12月のFIFA総会でカタールが2022年サッカー・ワールドカップ開催国に決定した時のものである。左端がカタールのハマド首長、中央に写っているのがブラッターFIFA会長である(右端は2018年開催国となったロシアの副首相)。2022年ワールドカップにはカタールの他、韓国、日本、オーストラリア及び米国も立候補した。最後はカタールと米国の一騎打ちとなり結局カタールが14票を獲得、8票の米国を破ったのである<sup>1</sup>。

カタールはアラビア(ペルシャ)湾に面し、面積は秋田県よりやや狭く、人口も純粋のカタール人は30万人程度(外国人出稼者を含めた公称人口は160万人<sup>2</sup>)の小国である。その一方、豊富な天然ガスのおかげで一人当たりGDPは74,400ドルに達する富裕国でもある<sup>3</sup>。

ワールドカップは持ち回りで開催される慣例があり、2018年はヨーロッパ、2022年はアジアとすることが事前に了解されていた。そのため日本を含めたアジアの4カ国が立候補したのであるが、その中でカタールが選ばれたのは何故か？ワールドカップが開催される夏場のカタールは日中の気温が40度を超え試合のコンディションとしては良くない。このため2008年1月にカタールが立候補宣言したとき、同国はダークホースに過ぎなかった。同国は豊富な金にもものを言わせて強引な誘致活動を行った。その過程でFIFAの理事たちに対する巨額のワイロの噂が広がった。ワイロの授受は国際的なスポーツイベントでは珍しいことではない。米国のメディアは、カタールが金でワールドカップを買った、と報道した。ワイロという禁じ手を封じられた米国がカタールに意趣返しをしたのである。

問題が開催国の決定だけにとどまっていれば、「人の噂も75日」として次第に忘れられていったであろう。しかしFIFAの会長選挙にカタール出身のビン・ハマド・アジアサッカー連盟会長が立候補したことでこの問題が再燃した。6月1日の会長選挙を目前に控えた25日、FIFAはビン・ハマド及び3名の理事を29日に開催する倫理委員会に召喚すると発表した<sup>4</sup>。カタール政府

は直ちに誘致疑惑に対する反論文書を発表した<sup>5</sup>。またビン・ハマド自身も滞在先のシンガポールで記者会見を行い、自らの潔白を主張するとともに、今回の召喚は再選を狙うブラッター現会長が自分を引きずりおろすために仕掛けたものだと言った。会長選挙は泥仕合の様相を呈している。

真相は闇の中である。しかしこれを FIFA とカタール政府のパワーゲームととらえればカタール側の分の悪さは否定できない。カタールはワールドカップ開催の栄誉を得たことで満足していれば問題は無かったが、FIFA 会長という「名誉」にまで野心を伸ばしたことで欧米諸国を後ろ盾とするブラッター現体制の怒りを買った。欧米から見ればカタールはただの中東の成金なのだ。伝統ある FIFA の会長職をカタールに明け渡すはずはないであろう。蛇足であるが欧米が国際組織のトップの座をアジア、中南米などに簡単に渡さないことは IMF 専務理事の選出過程を見ても分かることである。

ただし筆者はカタールに同情するつもりは無い。今のカタールは成金の成り上がり根性そのものである。カタールがワールドカップの開催能力があることは否定しない。しかしそれはあくまで財力の面で言えることであって、カタール自身には実際の実務能力が決定的に不足している。数年前のアジア大会を実質的に取り仕切ったのはオーストラリア人であり、今回のワールドカップはドイツ人がその役割を担うことになる。同国は外国人に頼らなければ何もできないのである。

潤沢な資金と外国の建設企業、そして外国人労働力によりサッカー場 6 面、メトロ、ホテルなどのインフラ整備が 2022 年までに完成することは間違いないであろう。しかしワールドカップが始まった時、人口わずか 30 万人の国で競技場のスタンドは埋まるのだろうか。公称人口 160 万人の大部分を占める出稼ぎ外国人が観戦するはずはない。ヨーロッパから多くのサッカー・フーリガンが押し掛けるにしてもアジア、アフリカ或いは南米の試合は閑古鳥が鳴くであろう。今年初めに同国で開催されたアジア・カップを取材した日本のメディア関係者は多分同じことを考えたと思う。

ワールドカップは巨大なビジネスである。気前の良いカタールと膨大なテレビの放映権料が大きな黒字を生みだし FIFA は笑いが止まらないに違いない。カタールは開催国としての「国家的栄誉」を金で買うことはできた。しかし FIFA 会長ポストという「個人的名誉」を獲得するのは時期尚早と言える。「国家の栄誉」と「個人の名誉」は違うことをカタールは気付くべきであろう。

FIFA がカタールにレッド・カードを突きつけている。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

---

<sup>1</sup> Arab News on 2010/12/3, 'Qatar makes history'

<http://arabnews.com/sports/article206328.ece>

<sup>2</sup> 外務省「各国地域情勢」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/quatar/data.html> による。

<sup>3</sup> IMF, 'World Economic Outlook Database, October 2010'

<sup>4</sup> Gulf Times on 2011/5/26, 'Hamman denies FIFA charges'

[http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu\\_no=2&item\\_no=436994&version=1&template\\_id=49&parent\\_id=29](http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu_no=2&item_no=436994&version=1&template_id=49&parent_id=29)

<sup>5</sup> Gulf Times on 2011/5/24, 'Qatar World Cup bid team rejects 'false' allegation'

[http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu\\_no=2&item\\_no=436630&version=1&template\\_id=57&parent\\_id=56](http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu_no=2&item_no=436630&version=1&template_id=57&parent_id=56)